

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	小田原市学校給食センター	階数	地上2F
建設地	神奈川県小田原市成田1111番2	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	35人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,640時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年10月 予定	評価の実施日	2023年5月15日
敷地面積	4,001 m ²	作成者	株式会社梓設計
建築面積	1,680 m ²	確認日	2023年5月18日
延床面積	2,291 m ²	確認者	株式会社梓設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
2階建てのコンパクトな給食センターとし、周囲への環境配慮を行いつつ、特徴的なファサードによる地域への顔づくりや、可能な限り緑化を図り良好な環境を創出		
Q1 室内環境 衛生的な観点から自然光を取り入れられない給食エリアを除き、積極的に外光を取り入れる工夫と、シックハウスに配慮した内装材の採用を実施	Q2 サービス性能 作業従事者は窓のない空間で調理にあたるため、休憩スペースとなる食堂兼会議室は眺望に配慮したリラックススペースに配慮した計画とするとともに、維持管理や更新性にも十分配慮した仕上、仕様選定を実施	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内の緑化により豊かなアプローチとして周辺環境に配慮した計画とする。また防犯性についてもカメラや外周フェンスにより対策を実施
LR1 エネルギー 省エネルギーに優れた各種設備機器を採用し、LCCO ₂ に配慮した計画を実施。	LR2 資源・マテリアル 節水型の衛生器具を採用(自動水栓及び節水型便器)	LR3 敷地外環境 2階建てのコンパクトな給食センターとし、周囲へ日影の影響を最小限とした環境配慮を実施

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される